

ひなの家押野通信第28号

丸木会館で、おひな様を鑑賞する会を見学 華やかな飾りに子供のころを思う

桃の節句の3月3日、利用者が野々市市押野の丸木会館で開催中の「おひな様を鑑賞する会」(丸木町会主催)を見学しました

鑑賞する会には、町内の家で使われなくなったおひな飾りの七段飾り、三段飾り、花嫁のれんなど会場狭しと並べられました。中には90代の女性が制作したというかわいなおひな、めひ

なも展示されていました。訪れた利用者は「子供のころ、待ち遠しかったおひなまつりを思い出した」と目を輝かせていました。会場では、トーンチャイムの愛好グループ「ほんわ



野々市市押野1-31
電話076(287)5810

かチャイム」のメンバーと利用者が一緒に、「うれしひなまつり」を演奏しました。



④はおひな様を鑑賞する会のポスター
⑤はトーンチャイムを手にする利用者

①は会場狭しと展示されたおひな飾り



一足早くピンクの花が満開 壁面に「桜の大木」

ホムのフロアに一足早く満開の「桜の大木」が登場しました。利用者か、ピンクの薄い花紙を蛇腹状に折ってから、一枚一枚広げて行くと、きれいな「桜の花」が出来上がりました。大きな木の枝を挿した厚紙の上に、「花」を貼りつけていきました。外はまだ、桜のつぼみが堅いままでしたが、フロアに咲きほころぶ満開の桜を見た利用者は「一足先に春がやってきたよつですね」と喜んでいました。

四季を撮る



「春がきた」アヒルが大喜び



ぽかぽか陽気となった3月のある日。アヒル小屋の扉を開けたとたん、小屋の主人がガア、ガアと鳴きながら、飛び出てきた。ひなたぼっこしたあと、周囲の雑草の芽をついばんだ。待ちに待った春。暖かな日差しを体中に浴びて気持ちよさそうだった。

今が盛りりのツバキにうつとり 珍しい品種や絵画作品を見学

野々市中央公園や野々市市文化会館などで「椿まつり2022」が開かれ、利用者が今が盛りりのツバキの花を楽しく見学しました。

野々市中央公園内には、ガラス張りの「ののいち椿館」があり、珍しい品種の鉢植えが並び、屋外

の小高い「椿山」には多くの樹木が植えられています。園全体では400種以上、1700本を超えるツバキがあります。品種によっては秋から咲きはじめ、3〜4月が花のピークです。

まつりが開かれた3月中旬、利用者は、色鮮やかに咲いたツバキにうつとり見入ったり、ツバキを題材とした絵画を見学、季節を感じていました。



「㊤と㊦は、椿まつりを訪れた利用者」
「㊧はツバキが咲きほころびました」

ネパール人学生が研修



金沢福祉専門学校で介護福祉を学んでいるネパール人のギャヌさん、写真㊦とハリさん、同㊦㊦がひなの家押野で介護の実習に励みました。利用者と会話をしたり、車いすを押ししたり、ドカ雪が降った日には、ホーム前の道沿い駐車場いっぱい積もった雪をせっせと運び出し、利用者の便意を図りました。

丸木会館で利用者と一緒にトーンチャイムを演奏した。ハンドベルに似て、アルミのパイプをたたいて共鳴させる。柔らかく美しい音色が魅力だ。もちろん、初めて手にした人ばかり。愛好グループの丁寧な指導で、「うれしいひなまつり」を演奏した。みんなの笑顔が忘れられない。(浦上)

スタッフ紹介 「元気いっぱい」㊰

介護士 太田 智子さん



「楽しく仕事がしたい」と語る太田さん

利用者一人一人に声掛けを大切にしたい

基礎研修を修了後、ひなの家彩(当時は悠久の郷)に入った。7〜8年勤めたあと、昨年7月、同じグループ内のひなの家押野に異動になった。「ホームの利用者に興味を持った。一人一人に声かけし、

きちんとコミュニケーションをとっていくことが課題」と言い切る。コロナ禍でも、利用者により元気づけてもらおうと、時には美術館見学や初詣など利用者と一緒に積極的に外出する。「そんなところが小規模多機能のいいところ」とほほえむ。

◎編集後記

「仕事は楽しく」がモットー。好きな温泉は、最近ではコロナで行けませんが、これから行けるのを楽しみにしている。